

(11) 实用新案登録番号

實用新案登録第3081570号  
(U3081570)

(45)発行日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(24)登録日 平成13年8月22日(2001.8.22)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

FI

**B 6 5 D 53/02**

**B 6 5 D 53/02**

43/16

43/16

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 8 頁)

(21)出願番号 実願2001-2744(U2001-2744)

(22)出願日 平成13年5月7日(2001.5.7)

(73)實用新案權者 391013025

阪神化成工業株式会社

富山県富山市小中163番地

(72) 考案者 藤本 高志

富山県富山市小中163番地 阪神化成工業  
株式会社内

(72) 考案者 中山 順夫

富山県富山市小中163番地 阪神化成工業  
株式会社内

(74) 代理人 100090206

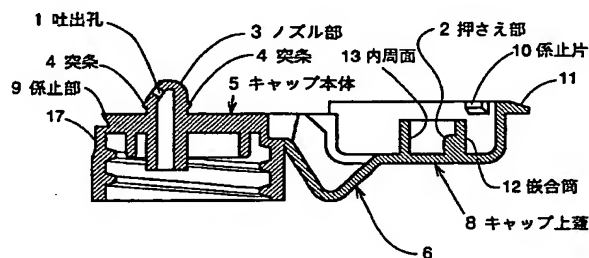
井理士 宮田 信道

(54)【考案の名称】 容器用密栓キャップ

(57) 【要約】

【課題】 強い衝撃によっても内容物が漏れ出すことなく、且つ開閉が容易な容器のキャップを開発する。

【解決手段】 容器 7 内と連通するノズル部 3 に吐出孔 1 を有するキャップ本体 5 と、該キャップ本体 5 に被せ、前記ノズル部 3 を嵌め込む嵌合筒 12 を有するキャップ上蓋 8 と、を備え、前記吐出孔 1 を押圧するための押さえ部 2 を嵌合筒 12 内に備えている容器用密栓キャップ、または前記吐出孔 1 の下部位置に、ノズル部 3 の外周面を囲み且つ嵌合筒 12 の内周面 13 に圧接する突条 4 を備えている容器用密栓キャップであって、キャップ本体 5 とキャップ上蓋 8 が開閉可能で且つ分離不可能に接続しており、キャップ本体 5 に係止部 9 を備え、該係止部 9 と係合して密栓状態で固定するための係止片 10 をキャップ上蓋 8 に備えてある容器用密栓キャップを提供する。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 容器（7）内と連通するノズル部（3）に吐出孔（1）を有するキャップ本体（5）と、該キャップ本体（5）に被せ、前記ノズル部（3）を嵌め込む嵌合筒（12）を有するキャップ上蓋（8）と、を備え、前記吐出孔（1）を押圧するための押さえ部（2）を嵌合筒（12）内に備えていることを特徴とする容器用密栓キャップ。

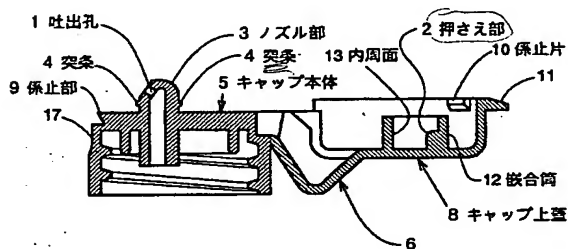
【請求項2】 前記吐出孔（1）の下部位置に、ノズル部（3）の外周面を囲み且つ嵌合筒（12）の内周面（13）に圧接する突条（4）を備えていることを特徴とする請求項1記載の容器用密栓キャップ。

【請求項3】 キャップ本体（5）とキャップ上蓋（8）が開閉可能で且つ分離不可能に接続してあることを特徴とする請求項1または2記載の容器用密栓キャップ。

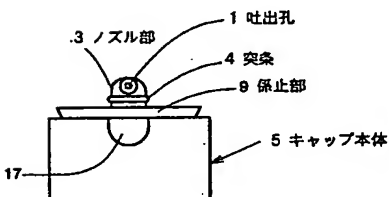
【請求項4】 キャップ本体（5）に係止部（9）を備え、該係止部（9）と係合して密栓状態で固定するための係止片（10）をキャップ上蓋（8）に備えてあることを特徴とする請求項1、2または3記載の容器用密栓キャップ。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】



【図3】



【図1】本考案によるキャップを開いた状態を示す断面図である。

【図2】本考案によるキャップを開いた状態を示す上面図である。

【図3】本考案によるキャップの一部を示す正面図である。

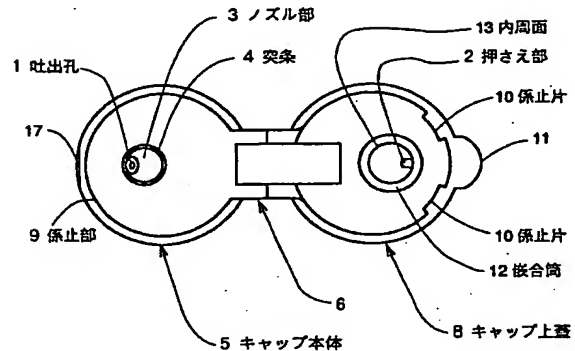
【図4】本考案によるキャップを閉じた状態を示す断面図である。

【図5】本考案によるキャップを使用した、実施態様を示す図である。

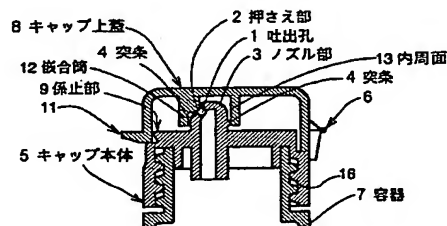
## 【符号の説明】

- 1 吐出孔
- 2 押さえ部
- 3 ノズル部
- 4 突条
- 5 キャップ本体
- 7 容器
- 8 キャップ上蓋
- 9 係止部
- 10 係止片
- 12 嵌合筒
- 13 内周面

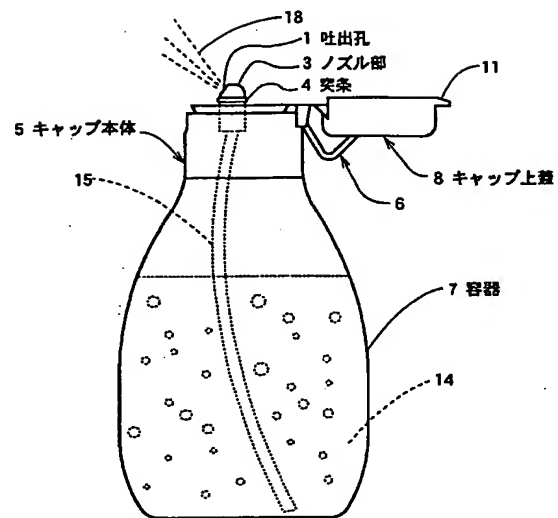
【図2】



【図4】



【図5】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、容器内の内容物が衝撃によっても漏れ出ることのない容器用密栓キャップに関する。

**【0002】****【従来の技術】**

液体の内容物が入った容器に、内容物の漏れを防いで密栓でき、且つ一度開封した後も開閉が容易なキャップは、従来から開発されている。しかし、日常における取り扱い程度では液漏れがなくとも、製造ラインで高所から落下させたり、輸送中に衝撃を受けたりするなど、強い衝撃を受けると、液漏れが起こり、容器外ににじみ出ることが起こるという問題点があった。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

そこで本考案は、開閉の容易さを維持しながらも、液漏れを起こさないキャップを開発することを目的とする。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

本考案のうち請求項1記載の考案によれば、容器内と連通するノズル部に吐出孔を有するキャップ本体と、該キャップ本体に被せ、前記ノズル部を嵌め込む嵌合筒を有するキャップ上蓋と、を備え、前記吐出孔を押圧するための押さえ部を嵌合筒内に備えている容器用密栓キャップとする。このように構成すれば、吐出孔を押さえ部で直接押さえて閉じているため、強い衝撃でも吐出孔から内容物が決して出ないようにすることができる。キャップ本体とキャップ上蓋とは分離可能としても良いが、キャップ上蓋を紛失しないために、分離不可能に構成してあることが望ましい。

**【0005】**

本考案のうち請求項2記載の考案によれば前記吐出孔の下部位置に、ノズル部の外周面を囲み且つ嵌合筒の内周面に圧接する突条を備えていることを特徴とす

る容器用密栓キャップとする。このように構成すれば、吐出孔を圧接する押さえ部に加え、吐出孔の外部でも、ノズル部の突条と、嵌合筒内周面で密着して水平方向に圧接することによって、より確実に内容物の漏れを防止することができる。

#### 【0006】

本考案のうち請求項3記載の考案によれば、キャップ本体とキャップ上蓋が開閉可能で且つ分離不可能に接続してある容器用密栓キャップとする。このように構成すれば、確実に内容物の漏れを防ぎつつ、一度開封してもまた密栓することができ、使用の際にキャップ上蓋を誤って紛失してしまう心配もない。また、極めて容易に開閉操作して使用することができる。

#### 【0007】

キャップ本体とキャップ上蓋を開閉可能で且つ分離不可能に接続する構造は問わないが、キャップ本体の一端とキャップ上蓋との一端が、一点または複数点で支持され、開孔および閉孔状態で静止でき、スナップすることで180度揺動可能に開閉するヒンジが挙げられる。

#### 【0008】

また、キャップ本体に係止部を設け、キャップ上蓋裏面に設けた係止片と係合させて、閉孔時に密閉固定させる構造としてもよい。このように構成すれば、高い気密性を維持し、不用意にキャップが開くことなく、不使用時の漏れを完全に防止することができる。

#### 【0009】

本考案のうち請求項4記載の考案によれば、キャップ本体に係止部を備え、該係止部と係合して密栓状態で固定するための係止片をキャップ上蓋に備えてある容器用密栓キャップとする。このように構成することにより、一度密栓すれば、キャップ本体とキャップ上蓋が密閉状態で固定され、輸送や携帯の際などの振動で、勝手にキャップ上蓋が開いて内容物が漏れることを阻止することができる。

#### 【0010】

本考案のキャップ本体吐出孔面は、水平方向に対して、鋭角をなして上方方向

に向いており、使用の際、内容物の液体が斜め上方に吐出または噴射できるようにすれば、より便利に使用することができる。吐出孔面は平面であるが、吐出孔を押圧する押さえ部は球面状を有しており、閉孔時には吐出孔内側にわずかにめり込む形で押圧するようになっている。このように構成すれば、完全に吐出孔が閉じられ、容器内側から外側に、一瞬高い圧力がかかって内容物の液体が外に出ようとしても、十分にその圧力に耐え、内容物の不意の吐出を阻止することができる。

#### 【0011】

なお、容器の内容物が、低粘度の液体、高粘度の液体、ゲルなどに本考案のキャップを適用できるが、内容物が粉体であっても、本考案のキャップを効果的に使用できる。また、本考案のキャップと容器本体との接続方法は問わないが、しっかりと締めて結合できるねじ口による方法が望ましい。

#### 【0012】

また、内容物が液体である場合には、キャップ本体の吐出孔に連通する管を備えることにより、容器を手で押圧することで容器内容物の液体を吸い上げ、霧状に噴射する構造としても良い。

#### 【0013】

本考案に用いるキャップの材質は問わないが、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ABS樹脂などの熱可塑性樹脂が挙げられる。本考案に用いるキャップは、射出成形など通常のプラスチック成形方法にて製造することができる。

#### 【0014】

##### 【考案の実施の形態】

以下、図面に基づいて本考案を詳細に説明する。

#### 【0015】

図1に、本考案によるキャップの断面図を、図2にキャップを開いた状態の上面図を、図3にキャップの正面図を示す。キャップ本体5に、ヒンジ6により接続されたキャップ上蓋8が開けられた状態を示している。キャップ本体5には、容器内に連通するノズル部3が備えられており、ノズル部3上部には、水平方向

と60度の角度をなす形で液状の容器内容物を吐出する吐出孔1が備えられてある。このように構成することで、斜め上方に容易に吐出することができる。ノズル部3の外周面に設けた突条4と、突条4の上部位置にある吐出孔1を押さえるための押さえ部2と、によって、容器内の内容物の液漏れを確実に阻止するよう構成されている。

#### 【0016】

キャップ上蓋8には、指で開けやすいように、押し開け部11が、外側に張り出す形で備えられ、さらに、キャップ本体5には、指を当てやすいようわずかにくぼんだ凹部17が備えられている。また、キャップ本体5には縁が鋭角をなす係止部9が備えてあり、キャップ上蓋8にはキャップ上蓋8を閉じたときに前記係止部9に係止するための係止片10が2カ所備えてある(図2)。ヒンジ6は、キャップ上蓋8を開放時に、キャップ本体5とキャップ上蓋8のなす角度が150~180度の特定の角度で静止し、キャップ上蓋8を閉じた時には、ワンタッチでキャップ本体5と接触するまで閉じるという、2段階の角度で固定されるため、使用中にキャップ上蓋8が重力や振動によって閉じる方向に動かないようになっている。キャップを閉める際には、手などでキャップ上蓋8を押さえることで、係止片10が係止部9と係合し、密栓状態となる。

#### 【0017】

図4に、本考案によるキャップの上蓋を閉じた状態の断面図を示す。容器7とキャップ本体5のねじ口16により接続されているキャップ本体5に、ヒンジ6により接続されたキャップ上蓋8が閉じられてある。キャップ本体5のノズル部3上部にある吐出孔1を圧接するための押さえ部2が、吐出孔1内にめり込む形で吐出孔1を塞いでいる。さらに、ノズル部3の外周部に360度にわたって備えられた突条4が、嵌合筒12の内周面13と圧接されて、内容物の吐出を阻止している。キャップ上蓋8の、図1および図2に図示した係止片10が、キャップ本体の係止部9と係合され、キャップ本体5とキャップ上蓋8が密栓されて一体化されている。

#### 【0018】

図5は、本考案による実施態様を示す側面図である。キャップ本体5と容器7

が結合されて一体化されてある。キャップ本体5のノズル部3下部に連通して、液状の容器内容物14を吸い上げるための吸上管15が備えられてある。吸上管15下方は容器内容物14に浸かっている。本考案のキャップを備えた容器を使用する際には、キャップ上蓋8の押し開け部11を指で押して、キャップ上蓋8をキャップ本体5から開放して、キャップ本体5上のノズル部3を外部に露出させ、容器7を手で押圧することで、容器内容物14を吸上管15により吸い上げ、ノズル部3を通過させて、吐出孔1から霧18として霧状に噴霧する。なお、霧状に噴霧するほか、容器7を逆さまにすることで、液状容器内容物を棒状に滴下させることもできる。

#### 【0019】

##### 【考案の効果】

本考案のキャップによれば、容器を密栓可能とすることで、製造ラインや輸送時における強い衝撃を受けても、また、消費者が一度開封して再び閉栓しても、内容物が漏れ出すことなく、容器内への雑菌侵入、容器外への漏れ出しによる汚染を防ぐことができる。また、密栓可能としながらも容易且つ便利に開閉可能なキャップとすることができる。